

はじめに



本年、川崎再生のための経営プランとして、「誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき」を目指す、川崎市新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」を策定いたしました。

この計画では、川崎のもつポテンシャルを十分に活かしながら、「活力とうるおいのあるまちをどのように育て、運営していくか」という視点から、計画の実行性の担保と、施策の優先順位の明確化を重視しております。

今後、市民本位の自治のまちづくりを進めることを基本に据え、都市としての自立と持続可能性を確かな

ものにするとともに、自助・共助・公助のバランスのとれた地域社会を確立することを目指してまいりたいと考えています。

このような取組の一つとして、市のシンボリック的存在であり、街の歴史を形づくってきた「母なる川」多摩川の魅力を最大限に活かし、都市の中における貴重な自然空間を、市民の皆さまとともに創ってまいります。

また、この貴重な自然空間を創り、守っていくためには、地球温暖化をはじめ、廃棄物問題や緑化の推進など、環境に対する総合的な取組が必要であり、市民、企業、行政など各主体の自主的な活動とともに、それぞれが連携した環境保全活動が重要となってきます。

この環境保全活動を活性化するため、本年5月、「環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が全面施行され、環境教育の重要性が高く位置付けられました。本市においても、「環境を大切に作る心」を育てる環境教育・学習を推進するため、「環境教育・学習基本方針」の改訂作業を進めるとともに、幼稚園児を対象とする環境教育が本格的にスタートいたしました。

この取組では、教師や保護者、地域の方々が、お互いの力を出し合い、そしてともに活かしながら事業を進めています。このようなパートナーシップにより、川崎市民全員で「環境を大切に作る心」を育てることが、持続可能な循環型社会に向けた「第一歩」になるのではないかと考えております。

さて、この環境基本計画年次報告書は、2004年度における市の環境の現状と施策の実施状況を取りまとめたものです。

本書を御覧いただきまして、本市の環境の現状を御理解していただくとともに、市民の皆さまから、各主体が手を携え活動ができるよう、市の環境施策に対する貴重な御意見を寄せられますことをお願い申し上げます。

2005年11月

川崎市長 **阿部孝夫**